



ルームメートの誕生日を祝う(左端が筆者)



大学院生とともにドイツへ(手前右端が筆者)

に基づく調査分析ではあったが、自分で仮説を組み立てる作業はおもしろく、その経験がいまの進路選択につながっている。

一人の人間として社会に貢献する

I Bがユニークなのは、学力だけではなく、社会奉仕活動の経験も求めている点である。人命救助、高齢者施設訪問などの社会福祉活動のなかから一つを選び、二年間を通して行う。私はボートによる人命救助隊に参加した。訓練はプールでの救命訓練から始まる。自分の倍近い体格の友人を横泳ぎで牽引し、規定

時間内にプールサイドに引き上げる訓練に合格しなくては、ボートに乗ることすらできない。合格するまでは苦しい練習が続いた。海に出る日は、ラジオの気象情報を聞き取って天気図を描き、潮の流れを読み、海の状態を予測する。これらも一苦労だった。A Cが面しているプリストル海峡は、潮位の変化が激しく、しばしば荒れる。そんな海でボートの操縦や救助訓練を行った。小柄な私は水中から船に飛び乗ることすらできず、引っぱり上げてもらう始末で、救助に出かけるどころか、自分が遭難しそうなこともあった。それでも

一生懸命に取り組むうちに、二年目には訓練ボートの責任者を任せられるようになった。実際に救助に出る機会は幸いになかったけれど、一七歳にして命を預かることの緊張感、訓練の厳しさとそれを乗り越えたときの喜びを経験できたことは、大きな自信になったと思う。

経験を胸に

現在、私は大学で都市計画の教育・研究に従事している。都市計画の目的は、人々が安全に快適に生活できる環境を守り育てることであるが、昨年、発生した東日本大震災は、各地に大きな被害をもたらし、都市計画分野にも難問を突き付けた。住む場所を奪われた方々に、少しでも早く、安全で快適な住宅を用意することは喫緊の課題であるが、さまざまな意向が錯綜しており、すべての方に納得していただける復興の将来像を示すことは容易ではない。また多くの地域で人口が減少傾向にあるなかで、人々が未来に希望を持つるまちづくりをすることは難題である。

復興までの道のりはまだ遠い。それでも、希望を見失わず、一步一步できることを積み重ねていくことが、結局は復興への近道となる。A Cで学んだ、議論を尽くすこと、諦めずに続ける心はここにも活かしている。私ができることは微力ではあるが、都市計画の分野で貢献していきたい。

一歩ずつ前へ

筑波大学大学院システム情報工学研究科講師

藤井さやか
ふじい



一九九一—一九九三年UWCアトランティックカレッジ(英国)留学。
筑波大学第二学群社会学工学類卒業。東京大学大学院工学系研究科にて博士(工学)取得。二〇〇五年より現職。

今回、原稿執筆の依頼をいただき、ユナイテッドワールドカレッジ(以下、UWC)で過ごした日々から今日までの約二〇年間の出来事を本当に久しぶりに思い返している。いつのころからか心の引き出しにしまい込んでいたたくさんの思い出は、一度ふたを開けると次から次へと溢れ出し、懐かしさと愛おしさ、そして少しのほろ苦さを運んできた。素晴らしい友人に囲まれた二年間は、何物にも代えがたい貴重な経験であり、いまの私につながる重要な原点であることをあらためて確認している。

◆初めて日本の外へ

私は一九九一年から二年間、英国にあるUWCアトランティックカレッジ(以下、A/C)に留学した。当時、国際的な機関で世の中に

役立つ仕事をしたという漠然とした夢を抱いていた私にとって、世界七〇カ国以上の生徒が集まり、寮で共同生活をしながら学ぶというUWCの環境は、この上なく魅力的に思えた。期待と不安に胸を膨らませた私のルームメイトは、背が高く超早口のイングリッシュ人とベリーショートの髪をオレンジに染めたパンクなドイツ人。にこやかに初対面のあいさつを交わす、のどかな初対面のイメージは見事に打ち砕かれ、弾丸のように繰り出される英語に名前すら聞き取れず、初日から苦戦した。それでも二年間、寝食を共にし、折に触れてお互いのことを語らうなかで、彼女たちはもちろんのこと、たくさんの大切な友人ができた。楽しいときは大騒ぎして笑い、落ち込んだときは何も言わずに抱きしめてくれる。親元を離れて集まった私たちは、大きな

●ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)日本協会は、世界各国から派遣されてくる生徒たちとの教育体験の共有により、国際感覚豊かな人材を養成するという理念を掲げるUWCの日本委員会として、毎年一〇名前後の高校二年生を世界各地にあるUWC傘下の高校に派遣し、すでに四五三名の卒業生を輩出している。

家族のような存在だった。

◆自分の意見を求める教育

UWCでは国際バカロレア(IB/世界九〇カ国で採用されている大学受験資格)のカリキュラムに基づき語学、数学、理科、社会、芸術から六科目を選択して学ぶ。どの科目でも講義中に議論の時間があり、宿題では自分の意見が求められる。母国語と英語に加えて二カ国語も三カ国語もできるオランダ人、英語はできなくてもずば抜けた数学力を持つロシア人、議論が大好きで数学でも議論を始めるウエルズ人など、個性豊かな友人と学ぶ講義は、英語で苦労はしたが、とても刺激的だった。自分でテーマを選択して取り組む卒業研究では、すでに都市計画に興味を持っていた私は地理学を選択した。出身地であるつくばを対象に、当時、大問題だった駐車場待ちに起因する交通渋滞の発生メカニズムの解明をテーマとして、商業地の店舗特性と集客率、駐車場キャパシティーなどを組み合わせて説明することに取り組んだ。初歩的な理論